

項目	概要
日時	2023年1月13日(金) 15:15~16:45
場所	Web会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	(1)開会 森川博之 企画・戦略委員会委員長ご挨拶 (2)ご講演：ミリ波に関する最新動向 (クアルコム・ジャパン 城田様) (3)ご発表：白書分科会活動状況について (白書分科会 リーダチーム) (4)ご発表：WAKUWAKU2030 活動状況について (ONBOARD 大山様) (5)今後の会合開催日程 (6)閉会
参加者数	約 115 名

以下、議事要旨。

(1)開会として森川委員長よりご挨拶が行われた。

(2)クアルコム・ジャパン城田様よりご講演があった。会合内質疑応答は以下の通り。

- ミリ波固有のユースケースはあるか
 - 様々なコンテンツがリッチになってきて、携帯電話のプランも容量を気にせず使いたいというニーズに基づいてアンリミテッドプランも出始めている。
 - こういったニーズに応じて、利用者の体験をストレスなく実現するため、ミリ波の活用を通してサポートしたい。
- ミリ波の置局のチューニングは困難なのか
 - 基地局や端末をミリ波の設計通りに通信するように実装することが非常に難しい。標準通り作ればパフォーマンスが出るわけではない。
 - 基地局ではビームフォーミングのマネジメントが出来るか（出力を上げても、届かないということや、消費電力のみが過大になる等）という点もある
- ミリ波の現状と展望に向けて、どのようなきっかけやアクションが求められるか
 - ミリ波を探さなくてもつかめるような場所を確保したい。ミリ波のネットワークそのものに繋げることが難しい。数はあるが、散発的になっている
- ミリ波×ローカル 5G の標準化・活用方法として議論されている新たな動きはあるか
- MNO が展開するエリアで、エリア内を網羅してカバーする周波数帯ではない。ローカル 5G での利用はユースケースとしても、そのようなエリアカバレッジを踏まえると相性が良い。他方、ローカル 5G を実装するにあたっては、機器・ソリューションのコストが高いことが挙げられる。ネットワークが高額であるというのは 3 年前に制度化した際の印象であったが、

- 値段も下がってきていると認識している。NRDC を活用して特殊なネットワークを作成する等のカスタマイズにミリ波が活用され、伸びる可能性はある
- (3) 白書分科会の活動状況について白書分科会リーダーチームより報告があった。
 - (4) WAKUWAKU2030 の活動状況について ONBOARD 大山様より報告があった。
 - (5) 今後の会合開催日程について事務局より報告があった。
 - (6) 閉会として森川委員長よりご挨拶が行われた。

以上